

令和4年6月27日

学校法人 三幸学園
大阪医療秘書福祉専門学校
校長 山本 稔 殿

学校関係者評価委員会
委員長 杉谷 肇

学校関係者評価委員会実施報告

令和3年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 杉谷 肇（宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院
総務課 部長）
- ② 岡田 智之（社会福祉法人 邦寿会 特別養護老人ホーム 高殿苑 施設長）
- ③ 川瀬 澄香（公益財団法人 浅香山病院 医事二課 副主任：2012年度卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和4年6月24日（会場 大阪医療秘書福祉専門学校 702教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

令和3年度 学校法人 三幸学園 大阪医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 満重美絵

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 杉谷肇

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理・介護福祉士を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・人間性を育むための教育

生徒の人間性を育むために「あきらめない教育」を日々実践している。生徒の社会人としての基本スタンス(あいさつ・礼儀・報連相等)については、まだまだ育成する必要があると感じている。コロナ禍では同じような指導・教育が難しかった。しかし、ウィズコロナの中でも、現場の求める人材を育成し、主体的に現場で活躍できる人材育成を目指す。

・検定合格率の向上

令和2年度大阪校は全国姉妹校と比較すると、姉妹校の平均合格率よりも下回る検定が多くあった。そのため令和3年度は、検定合格率向上を目指し、教科担当と担任・関連教科担当同士の連携を密にし、生徒指導にあたった。その結果、8割以上の主要検定で全国姉妹校平均合格率よりも高い数値を収めることができた。今年度も教科チーフを中心に教員間の連携を深め、全ての主要検定で全国平均点以上を目標に、結果にこだわる学生指導をおこなっていく。

・学生の受け入れ募集

令和3年度は令和2年度に引き続き募集は苦戦した。しかし、引き続き例年通り募集活動をおこない、対面のオープンキャンパスだけでなく、オンラインやオンデマンドを駆使したオープンキャンパスを実施する。業界の魅力・職業の魅力・学校の魅力を一層打ちだしていく必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

杉谷委員より(全学科)

検定に関して、平均より高い結果が出せたことは教員連携など対策がしっかり出来ていたからこそで、今後はその状況を維持することが大変であり、大事だと感じる。コロナ禍の生活が当たり前になり、勉強に対してのモチベーション低下が予想されるためその対策をしてほしい。

川瀬委員より(全学科)

あいさつ、礼儀、報連相の低下はウィズコロナだけが要因だとは思わない。あいさつができないだけで第一印象が悪くなってしまうのは事実。最近はコミュニケーションを苦手とする新入職員が多い印象があるため、自主性が乏しい学生のやる気を起こさせることが学校全体の底上げに繋がると思う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・学校の理念・目的・人材育成像は定められているが、生徒・保護者に対して周知浸透については、まだまだ課題がある。

③ 今後の改善方策

・入学前オリエンテーションをオンデマンド学習から、対面オリエンテーションにもどす予定である。入学前より学園の理念等にしっかり触れる機会を増やす。また日々のホームルーム又は就職指導等で理解し・学ぶことで、学びの習熟度をあげていく。

④ 特記事項

・特になし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・令和2年度よりメディア授業がはじまったが、教員課題として全体的にITリテラシーが不足している為、まだまだ情報システムを効率的に使いこなして教育効率向上を図るというレベルには達していない。

② 今後の改善方策

・学園で準備されているITリテラシー研修を活用し、情報システムを活用できる教員を増やしていく。

③ 特記事項

・学校ホームページにてシラバス等の情報公開をし、生徒保護者ともに開示している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

杉谷委員より(全学科)

どこの現場も勤務形態が複雑化し管理が難しくなっている。通常業務に関しても、何でも情報システム化できれば便利だが、ITリテラシーの向上も同時に必要となるため上手く取り入れて活用して欲しい。

岡田委員より(介護福祉科)

介護現場ではここ数年、眠りスキャンや各部屋のカメラ設置など業務効率化のために様々なものを積極的に取り入れている。しかし未だにケース記録を手書きしている現場もあるのも事実で、そういったものを取り入れている所とそうでない所の差がどんどん開いていっている。学校でも業務の効率化に力を入れて欲しい。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・資格取得については、合格率の向上は前年に引き続き課題である。
- ・教員の能力開発における研修は、常勤の教員は充実しているが、非常勤の教員に対する研修の機会が限られている。

② 今後の改善方策

- ・合格率の高い姉妹校への好事例をヒアリングし、教科担当へフィードバックをおこない、対策を講じる。また、検定取得に向けての雰囲気づくり(掲示や途中経過の共有)、担任からアプローチ(HR はもちろん、面談の中で個別に伝える)を強める。

③ 特記事項

- ・学生による授業アンケートを活用しながら、各教員の指導力把握と改善に努めていく。
- ・人材育成目標に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員の確保をしていく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・継続的に業界での仕事を続けられるようなキャリア教育の向上。
- ・就職未決定者が数名いるため、卒業後もサポートをおこなっている。
- ・検定合格率アップに向けての、担当者の授業、学校のサポート体制の質向上。

② 今後の改善方策

- ・病院、薬局、福祉施設など卒業生がお世話になっている就職先にご依頼し、就職ガイダンスや卒業生講話、医療機関講話を早期に実施する。
- ・教員同士が授業見学を行い、授業をおこなう環境設定が正しいか、学生に指導している授業内容は分かり易いか等授業研究をおこなう。また、教科会を通じて検定合格率の向上・対策について話し合い、認識を統一して授業に臨むようにする。

③ 特記事項

- ・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

杉谷委員より(全学科)

学校生活が充実した環境であれば、退学率低減や教育活動の改善に繋がると思う。検定取得率の低下は何が要因で起こっているのかよく分析しながら、質の高い教育の提供を引き続きお願いしたい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・課外活動に対する支援
- ・同窓会組織はあるものの、その他卒業生支援の内容が卒業生に浸透していない。

② 今後の改善方策

- ・地域連携ができるボランティアや業界内アルバイトなど、案内の強度を上げる。
- ・在学中から卒業後の支援内容について、一度ではなく数回にわたって伝達する。

③ 特記事項

- ・スクールカウンセラーの認知が高まってきている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

川瀬委員より(全学科)

特に女性は結婚や出産で長く仕事を続けることが難しいときがある。卒業後の再就職をサポートしてもらえる体制があれば、学校も卒業生の状況を知ることができ、良い関係を築けると思う。また、新入職員はゴールデンウィークやお盆休みなど長期休暇のあとに同窓会を実施できるとより良いと思う。その時期はモチベーションが低下している職員が出てくる頃でもあるため、早期退職の対策にもなると思う。

岡田委員より(介護福祉科)

介護現場では、コロナ禍になってからはボランティア活動や課外活動の受け入れが難しくなっている。少しずつWEB上で再開をしているが、直接手を触れれば笑顔になってくれる利用者様でも映像では反応がない場合があるため難しさを感じている。出来る範囲で工夫が必要である。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・災害対策マニュアルはあるものの、いざその場に出くわした場合に、対応できるかが課題。
- ・実習およびインターンシップなどを受け入れてくださっている関係施設が求めていることの認識不足。

⑥ 今後の改善方策

- ・会議でマニュアルの確認、方法・手段を話しあっておく。
- ・実習およびインターンシップなどを受け入れてくださっている関係施設への訪問を強化し、現場が求めている人物を育てていく。

⑦ 特記事項

- ・学生1名に対して1つ災害防災キットを学内に常備している。(6階より上のフロアで保管)

⑧ 学校関係者評価委員会コメント

杉谷委員より(全学科)

ハザードマップに記載されている水害被害などは学校周辺の状況も把握しておくとうい。医療現場でも数日分の備蓄や自家発電はあり、世間的にもBCP(ビジネスコンテニュープラン)が厳しく求められている。

岡田委員より(全学科)

BCPは近年自然災害が多いこともあり、介護現場でも意識が高まっている。災害や非常時でも生活を維持するために平常時に方策を練っておくべきである。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・18歳人口減少の中での入学生の確保
- ・学生数を多く確保してきた学科の入学者の減少

② 今後の改善方策

- ・地域広報室との連携を取り、ニーズ調査、原因分析を行う。
- ・近代の AI 技術の発展にともない、医療事務員の将来性に不安要素を抱えている入学希望者に対して、オープンキャンパス等で医療事務の必要性とそれに対する学校の取組について説明できるようにする。
- ・オープンキャンパス等で入学者に対して適切な情報提供ができるよう、適宜研修を実施する。
- ・介護福祉士科において、留学生の入学促進を行う。

③ 特記事項

- ・なし

⑨ 学校関係者評価委員会コメント

川瀬委員より(全学科)

自分自身が在学していた時よりクラス数が減っており、人口減少を感じる。地域広報室と連携しながら学校の魅力を伝えてほしい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

・なし

【予算・収支計画】

・なし

【会計監査】

・なし

【財務情報の公開】

・なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

・現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に
今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

・なし

③ 特記事項

・なし

④学校関係者評価委員会コメント

・なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・なし

② 今後の改善方策

・なし

③ 特記事項

・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

杉谷委員より(全学科)

ハラスメントに関しては特に意識をしてリスク管理をしたほうがよい。年齢や価値観によって、指導とハラスメントの線引きが人それぞれであるため難しい問題であるが、外部研修や政府のガイドライン等も活用してほしい。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・地域連携ができるボランティアが少ない
- ・コロナ禍で学校へのボランティア活動の案内が減っている。

② 今後の改善方策

- ・卒業後に生かせる業界でのボランティアの促しをしていく。

③ 特記事項

- ・2020 年度より本校講師による公開講座が開始された。身近な医療費制度などについて知れ、誰でも受講することができる講座である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果、概ね健全な学校経営及び運営ができていると言える。但し、募集活動や検定合格は今回の課題を克服できるよう更なる経営努力が必要であると言える。本委員会で上がった意見を取り入れ、社会に求められる専門学校を今後も目指していく。